

第2節 アンケート分析（一般回答分）

1 総括（全体）分析

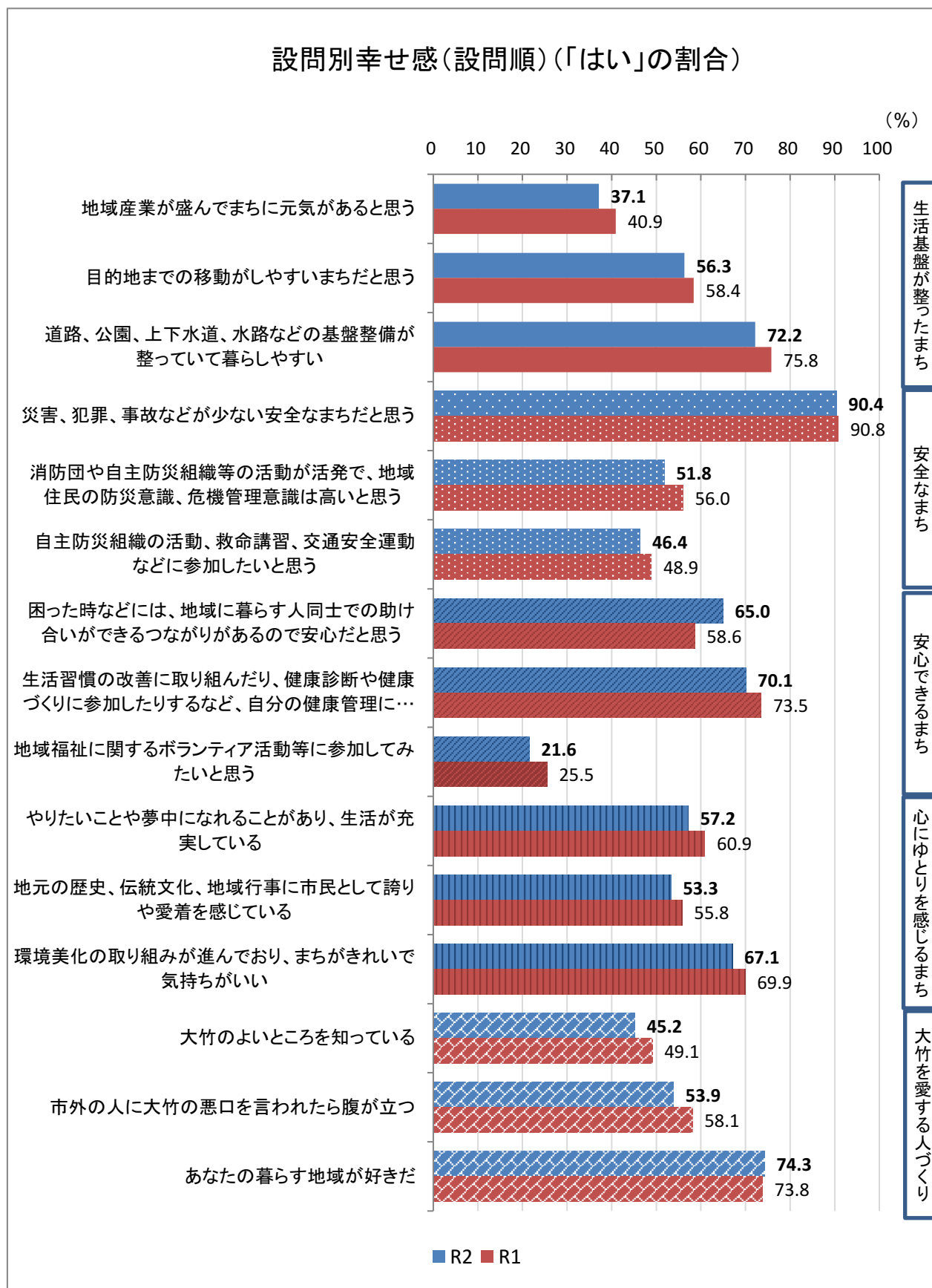
○単純集計結果（問・項目・設問別幸せ感）

問番号と項目			設 問	R2						R1			全項目での「はい」の順位変動	
				回答数(人)			設問の「はい」		項目の「はい」		設問の「はい」	項目の「はい」		
				は い	いいえ	無回答	割合(%)	順 位	割合(%)	順 位	割合(%)	割合(%)		順 位
問 1	生活基盤が整ったまち	地域産業が盛んでまちに元気があると思う	124	201	9	37.1	14	55.2	4	40.9	58.4	4	→	
		目的地までの移動がしやすいまちだと思う	188	136	10	56.3	8			58.4				
		道路、公園、上下水道、水路などの基盤整備が整っていて暮らしやすい	241	85	8	72.2	3			75.8				
	安全なまち	災害、犯罪、事故などが少ない安全なまちだと思う	302	27	5	90.4	1	62.9	1	90.8	65.2	1	→	
		消防団や自主防災組織等の活動が活発で、地域住民の防災意識、危機管理意識は高いと思う	173	148	13	51.8	11			56.0				
		自主防災組織の活動、救命講習、交通安全運動などに参加したいと思う	155	168	11	46.4	12			48.9				
	安心できるまち	困った時などには、地域に暮らす人同士での助け合いができるつながりがあるので安心だと思う	217	109	8	65.0	6	52.2	5	58.6	52.5	5	→	
		生活習慣の改善に取り組んだり、健康診断や健康づくりに参加したりするなど、自分の健康管理に日頃から気を付けている	234	96	4	70.1	4			73.5				
		地域福祉に関するボランティア活動等に参加してみたいと思う	72	251	11	21.6	15			25.5				
	心にゆとりを感じるまち	やりたいことや夢中になれることがあり、生活が充実している	191	132	11	57.2	7	59.2	2	60.9	62.2	2	→	
		地元の歴史、伝統文化、地域行事に市民として誇りや愛着を感じている	178	142	14	53.3	10			55.8				
		環境美化の取り組みが進んでおり、まちがきれいで気持ちがいい	224	101	9	67.1	5			69.9				
	大竹を愛する人づくり	大竹のよいところを知っている	151	162	21	45.2	13	57.8	3	49.1	60.3	3	→	
		市外の人に大竹の悪口を言われたら腹が立つ	180	143	11	53.9	9			58.1				
		あなたの暮らす地域が好きだ	248	74	12	74.3	2			73.8				
	問1全体			2,878	1,975	157	57.4			59.7				
問 2	市民自治	あなたの暮らす地域のことに普段から興味をもっている	176	137	21	52.7	41.2		49.9	45.1				
		自分でもできれば何か地域の役に立てるようなことをやってみたい	99	200	35	29.7			40.4					

○前年度との比較表（設問別幸せ感）①

問・項目			設問	R2		R1		前年度からの動き		
				「はい」の割合 (%)	左の 順位	「はい」の割合 (%)	左の 順位	「はい」の割合 (%)		順位
問 1	生活基盤 が整った まち	地域産業が盛んでまちに元気がある と思う	37.1	14	40.9	14	▲ 3.8	↘	→	
		目的地までの移動がしやすいまち だと思う	56.3	8	58.4	8	▲ 2.1	↘	→	
		道路、公園、上下水道、水路など の基盤整備が整っていて暮らしやす い	72.2	3	75.8	2	▲ 3.6	↘	↘	
	安全なま ち	災害、犯罪、事故などが少ない安全 なまちだと思う	90.4	1	90.8	1	▲ 0.4	↘	→	
		消防団や自主防災組織等の活動 が活発で、地域住民の防災意識、 危機管理意識は高いと思う	51.8	11	56.0	10	▲ 4.2	↘	↘	
		自主防災組織の活動、救命講習、 交通安全運動などに参加したいと 思う	46.4	12	48.9	13	▲ 2.5	↘	↗	
	安心でき るまち	困った時などには、地域に暮らす 人同士での助け合いができるつな がりがあるので安心だと思う	65.0	6	58.6	7	6.4	↗	↗	
		生活習慣の改善に取り組んだり、 健康診断や健康づくりに参加した りするなど、自分の健康管理に日 頃から気を付けている	70.1	4	73.5	4	▲ 3.4	↘	→	
		地域福祉に関するボランティア活 動等に参加してみたいと思う	21.6	15	25.5	15	▲ 3.9	↘	→	
	心にゆと りを感じ るまち	やりたいことや夢中になれることが あり、生活が充実している	57.2	7	60.9	6	▲ 3.7	↘	↘	
		地元の歴史、伝統文化、地域行事 に市民として誇りや愛着を感じて いる	53.3	10	55.8	11	▲ 2.5	↘	↗	
		環境美化の取り組みが進んでおり、 まちがきれいで気持ちがいい	67.1	5	69.9	5	▲ 2.8	↘	→	
	大竹を愛 する人づ くり	大竹のよいところを知っている	45.2	13	49.1	12	▲ 3.9	↘	↘	
		市外の人に大竹の悪口を言われ たら腹が立つ	53.9	9	58.1	9	▲ 4.2	↘	→	
		あなたの暮らす地域が好きだ	74.3	2	73.8	3	0.5	↗	↗	
問 2	市民自治	あなたの暮らす地域のことに普段 から興味をもっている	52.7	↗	49.9	↗	2.8	↗	↗	
		自分でもできれば何か地域の役に立 てるようなことをやってみたい	29.7	↗	40.4	↗	▲ 10.7	↘	↗	

○前年度との比較表（設問別幸せ感）②



○ 問1の各設問において、「はい」と答えた人の割合を算出し、その値が高いほど、市民の幸せ感も高いと判断します。

○ 問2（市民自治）については、「はい」と答えた人の割合が高いほど、「まちづくりを自分自身の問題として捉え、行政と一緒に考え行動する」わがまちプランに定める市民自治の理念が広まっていると判断します。

アンケートは、この割合を用いて、市民が普段の生活で感じている幸せ、あるいは心配な部分について分析を行いますが、毎年度異なる人にご協力をいただいておりますので、経年比較は傾向としてとらえることになります。

（1）「わがまちプラン」基本目標関連項目（問1）について

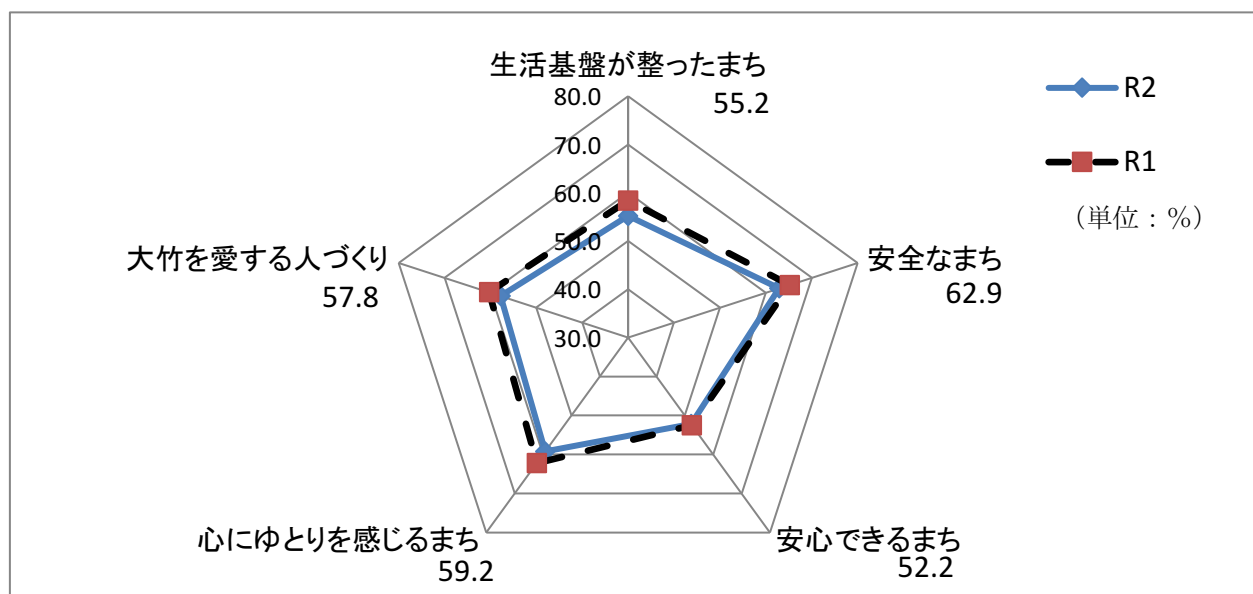
問1設問全体で、「はい」と答えた人の割合は、57.4%となっています。

前年度から若干数値が下がっていますが、約6割の人が幸せを感じながら日々の生活を送っているようです。

①項目別順位

項目比較での幸せ感の順位は、次のとおりです。前年度から順位の変動はありません。ただし、いずれの項目も割合が減少しています。今回は一般アンケートの回収率が前年度と比べて3.6%減少しており、一人の回答結果がもたらす変動幅が大きいことが要因として挙げられますが、新型コロナウイルス感染症の流行による市民生活や事業活動、市が行っている各種事業などへの影響も要因として考えられます。

順位	項 目	R 2 割合 (%)	対前年 比較	R 1 割合 (%)	順位
1	安全なまち	62.9	▲ 2.3	65.2	1
2	心にゆとりを感じるまち	59.2	▲ 3.0	62.2	2
3	大竹を愛する人づくり	57.8	▲ 2.5	60.3	3
4	生活基盤が整ったまち	55.2	▲ 3.2	58.4	4
5	安心できるまち	52.2	▲ 0.3	52.5	5



②設問別順位

幸せ感の上位3位及び下位3位の設問の状況は、次のとおりです。

上位3位は、前年度の2位と3位の順位が入れ替わっています。

下位3位は、「大竹のよいところを知っている」が前年度から順位を1つ下げ、13位となっています。

順位		設 問	割合(%)	
R 2	R 1		R 2	R 1
1	1	災害、犯罪、事故などが少ない安全なまちだと思う	90.4	90.8
2	3	あなたの暮らす地域が好きだ	74.3	73.8
3	2	道路、公園、上下水道、水路などの基盤整備が整っていて暮らしやすい	72.2	75.8
.	.	.	.	.
13	12	大竹のよいところを知っている	45.2	49.1
14	14	地域産業が盛んでまちに元気があると思う	37.1	40.9
15	15	地域福祉に関するボランティア活動等に参加してみたいと思う	21.6	25.5

③特徴

項目「生活基盤が整ったまち」（4位：55.2%）

「地域産業が盛んでまちに元気があると思う」（14位：37.1%）は、前年度と同じ順位で、3.8ポイント減少しています。

「道路、公園、上下水道、水路などの基盤整備が整っていて暮らしやすい」（3位：72.2%）は3.6ポイント減少し、前年度より順位を1つ下げています。

項目の幸せ感、前年度より3.2ポイント減少しています。

項目「安全なまち」（1位：62.9%）

「災害、犯罪、事故などが少ない安全なまちだと思う」（1位：90.4%）は、前年度より0.4ポイント減少しましたが、依然として高い幸せ感を維持しており、2位とのポイント差も16.1ポイントと昨年度からさらに広がり、他の設問に比べて幸せ感が高くなっています。

「消防団や自主防災組織等の活動が活発で、地域住民の防災意識、危機管理意識は高いと思う」（11位：51.8%）の幸せ感、前年度の10位から1つ順位を下げ、幸せ感も4.2ポイント減少しています。

項目の幸せ感、前年度より2.3ポイント減少していますが、前年度に引き続き、幸せ感が最も高い項目となっています。

項目「安心できるまち」（5位：52.2%）

「困った時などには、地域に暮らす人同士での助け合いができるつながりがあるので安心だと思う」（6位：65.0%）は、前年度の7位から順位を1つ上げ、幸せ感も6.4ポイント増加しています。

「生活習慣の改善に取り組んだり、健康診断や健康づくりに参加したりするなど、自分の健康管理に日頃から気を付けている」（4位：70.1%）は、前年度と順位は変わりませんが、幸せ感3.4ポイント減少しています。

「地域福祉に関するボランティア活動等に参加してみたいと思う」（15位：21.6%）は、前年度から3.9ポイント減少し、幸せ感最も低くなっています。

項目の幸せ感、前年度より0.3ポイント減少し、前年度に引き続き、幸せ感が最も低い項目となっています。

項目「心にゆとりを感じるまち」（2位：59.2%）

「やりたいことや夢中になれることがあり、生活が充実している」（7位：57.2%）は、前年度の6位から順位を1つ下げ、幸せ感も3.7ポイント減少しています。

「環境美化の取り組みが進んでおり、まちがきれいで気持ちがいい」（5位：67.1%）は、前年度と順位は変わりませんが、幸せ感は2.8ポイント減少しています。

項目の幸せ感は、前年度より3.0ポイント減少しています。

項目「大竹を愛する人づくり」（3位：57.8%）

「大竹のよいところを知っている」（13位：45.2%）は、前年度より3.9ポイント減少し、前年度から順位を1つ下げています。

「市外の人に大竹の悪口を言われたら腹が立つ」（9位：53.9%）は、前年度と順位は変わりませんが、幸せ感は4.2ポイント減少しています。

一方で、「あなたの暮らす地域が好きだ」（2位：74.3%）は、前年度から0.5ポイント増加し、順位も1つ上がりました。

項目の幸せ感は、前年度より2.5ポイント減少しています。

④特徴（設問と問3の自由記述（P43～55）[設問に付随した心配に思っていること]から）

項目「生活基盤が整ったまち」

◆ **設問「地域産業が盛んでまちに元気があると思う」（14位）**

前年度より3.8ポイント減少し、問1全体の平均値57.4%を約20ポイントも下回っています。「商店街に活気がない」、「商業施設はあるが買い物や飲食店が少ない」という意見や、「大手企業など地域産業は盛んでもまちが元気とは言えない」、「地域産業をよく知らない」などの意見もありました。また、「若い人が働ける場が少ない」、「若い人向けの店がない」など若い世代への言及も多く見られました。

◆ **設問「目的地までの移動がしやすいまちだと思う」（8位）**

前年度より2.1ポイント減少しました。車がないと移動が難しい場合は多いため、バスの増便やエリア・ルートの見直し、タクシー利用への助成など、公共交通の充実についてさまざまな意見が出ています。また、道路網に関してアクセスや道路の狭さなどの改善を求める意見もあり、岩国大竹道路整備の進展を求める声も挙がっていました。

◆ **設問「道路、公園、上下水道、水路などの基盤整備が整っていて暮らしやすい」（3位）**

前年度より3.6ポイント減少し、順位も1つ下がりましたが、前年度に引き続き、7割を超える人が暮らしやすさを感じています。改善を求める声としては、「歩道が歩きづらい」、「蓋のない水路が怖い」、「道が狭い」、「近くの公園でボール遊びできる場所がない」などの意見が多く、豪雨時の浸水被害などを懸念する声も挙がっていました。

項目「安全なまち」

◆ **設問「災害、犯罪、事故などが少ない安全なまちだと思う」（1位）**

前年度より0.4ポイント減少しましたが、90.4%という高い幸せ感で、全ての設問の中で唯一90%を超え、問1全体の平均値57.4%を33.0ポイント上回っており、2位との差も16.1ポイント開いています。しかし、近年増加している豪雨などによる災害への不安や、街灯など夜間照明や防犯カメラの設置を求める声、自動車のマナーの悪さを指摘する声も挙がっていました。

◆ **設問「消防団や自主防災組織等の活動が活発で、地域住民の防災意識、危機管理意識は高いと思う」（11位）**

前年度より4.2ポイント減少し、順位も1つ下がりましたが、前年度に引き続き5割を超える人が地域の防災意識、危機管理意識は高いと感じています。一方で、防災に対する意識の低さを訴える声や、消防団や自主防災組織などの活動がよく分からないという声も挙がっていました。

◆ **設問「自主防災組織の活動、救命講習、交通安全運動などに参加したいと思う」（12位）**

前年度より2.5ポイント減少しましたが、順位は1つ上がり、5割に近い人が自主防災組織の活動、救命講習、交通安全運動などに参加したいと考えています。参加しない理由としては、「働いているから」「いつどこでやっているか知らない」などが挙がっていました。

項目「安心できるまち」

- ◆ 設問「困った時などには、地域に暮らす人同士での助け合いができるつながりがあるので安心だと思う」（6位）

前年度より6.4ポイント増加し、順位も1つ上がり、6割を超える人が安心だと感じています。一方で、地域住民同士のつながりの希薄化を危惧する声が多く、その要因として仕事の忙しさや、昔から住んでいる人たちとの馴染みづらさが挙がっていました。地域の高齢化がもたらす様々な課題を挙げる声も多く挙がっていました。

- ◆ 設問「生活習慣病の改善に取り組んだり、健康診断や健康づくりに参加したりするなど自分の健康管理に日頃から気を付けている」（4位）

前年度より3.4ポイント減少しましたが、7割の人が健康について関心を持っています。耳鼻科、皮膚科など特定の診療科目を扱う病院の少なさを指摘する声や、運動できる施設やインストラクターの充実を求める声も挙がっていました。

- ◆ 設問「地域福祉に関するボランティア活動等に参加してみたいと思う」（15位）

前年度より3.9ポイント減少し、調査開始から最下位が続いています。ボランティアの内容や参加方法などが分からないため、情報発信の充実を求める声が挙がっていました。

項目「心にゆとりを感じるまち」

- ◆ 設問「やりたいことや夢中になれることがあり、生活が充実している」（7位）

前年度より3.7ポイント減少し、順位も1つ下がっています。やりたいことや夢中になれることは人によってさまざまですが、ここでは、図書館の充実をはじめ、文化・スポーツに触れる機会や施設の充実を求める声が多く挙がっていました。

- ◆ 設問「地元の歴史、伝統文化、地域行事に市民として誇りや愛着を感じている」（10位）

前年度より2.5ポイント減少しましたが、順位は1つ上がっています。地元の文化や歴史を知らないという声が多く、市内だけでなく市外に対してももっと周知するべきとの意見がありました。

- ◆ 設問「環境美化の取り組みが進んでおり、まちがきれいで気持ちがいい」（5位）

前年度より2.8ポイント減少しましたが、7割近い人が「きれいなまち」に関して気持ちがいいと感じています。たばこのポイ捨てなどゴミの問題や、道路沿いなどの草や木の適切な維持管理に関する意見が多く見られました。環境美化活動への関心は高く、地域での定期的な活動の充実の重要性などが指摘されています。

項目「大竹を愛する人づくり」

- ◆ 設問「大竹のよいところを知っている」（13位）

前年度より3.9ポイント減少し、順位も1つ下がっています。「はい」と答えた人の意見としては、「自然の豊かさ」、「まちがコンパクトで生活に必要なものが揃っている」、「人情があり地域のつながりがある」などが多く挙がっています。

- ◆ 設問「市外の人に大竹の悪口を言われたら腹が立つ」（9位）

この設問と次の設問は、ストレートに感覚を尋ねています。前年度より4.2ポイント減少しています。

- ◆ 設問「あなたの暮らす地域が好きだ」（2位）

前年度より0.5ポイント増加し、順位も1つ上がりました。7割を超える人が「はい」と回答しており、「大竹のよいところ」として挙がっていた「自然」「住みやすさ」「人の優しさやつながり」などがより具体的に挙げられています。「いいえ」と答えた人は、逆に交通機関の不足などによる「住みづらさ」や環境の悪さを挙げる人が多く見られました。

（2）市民自治（問2）について

「あなたの暮らす地域のことに普段から興味をもっている」（52.7%）は、前年度より2.8ポイント増加した一方で、「自分もできれば何か地域の役に立てるようなことをやってみたい」（29.7%）は、前年度より10.7ポイントも減少しています。

自由記述から、地域のためにやってみたいこととして、清掃などの環境美化活動を挙げる人が多く、子どもの登下校の見守りや本の読み聞かせ、高齢者のための支援、自治会活動、地域を盛り上げるような行事の開催など、多様な声が挙がっていました。

実際に行っていることとしては、自治会活動や環境美化活動などが多く見られました。

一方、やってみたいと思っていてもできない理由として、仕事や育児・家族の介護などで時間的・精神的な余裕がないことや、自身・家族の健康に関する問題などが多く見られました。

2 属性別分析
 (1) 性別
 ①問1について

項目	設 問	男性				女性			
		設問の「はい」		項目の「はい」		設問の「はい」		項目の「はい」	
		割合 (%)	順位	割合 (%)	順位	割合 (%)	順位	割合 (%)	順位
生活 した ま ち が 整 っ た 基 盤	地域産業が盛んでまちに元気があると思う	37.3	14			37.2	14		
	目的地までの移動がしやすいまちだと思う	63.4	7	58.2	3	51.3	9	53.2	4
	道路、公園、上下水道、水路などの基盤整備が整っていて暮らしやすい	73.9	2			71.2	3		
安全 な ま ち	災害、犯罪、事故などが少ない安全なまちだと思う	91.5	1			90.1	1		
	消防団や自主防災組織等の活動が活発で、地域住民の防災意識、危機管理意識は高いと思う	54.9	10	63.6	1	49.7	11	62.7	1
	自主防災組織の活動、救命講習、交通安全運動などに参加したいと思う	44.4	13			48.2	12		
安心 で き る ま ち	困った時などには、地域に暮らす人同士での助け合いができるつながりがあるので安心だと思う	64.8	5			64.9	6		
	生活習慣の改善に取り組んだり、健康診断や健康づくりに参加したりするなど、自分の健康管理に日頃から気を付けている	72.5	4	51.4	5	68.1	5	52.5	5
	地域福祉に関するボランティア活動等に参加してみたいと思う	16.9	15			24.6	15		
心 に ゆ と り を 感 じ る ま ち	やりたいことや夢中になれることがあり、生活が充実している	55.6	9			58.6	7		
	地元の歴史、伝統文化、地域行事に市民として誇りや愛着を感じている	50.0	11	56.8	4	55.5	8	60.9	2
	環境美化の取り組みが進んでおり、まちがきれいで気持ちがいい	64.8	5			68.6	4		
大 人 づ く を 愛 り す る	大竹のよいところを知っている	47.2	12			43.5	13		
	市外の人に大竹の悪口を言われたら腹が立つ	57.0	8	59.4	2	51.3	9	56.4	3
	あなたの暮らす地域が好きだ	73.9	2			74.3	2		
問1全体		57.9				57.1			

ア 全体的な傾向

問1全体での幸せを感じている割合は、「男性」57.9%、「女性」57.1%と、「男性」が「女性」よりも高くなっています。

イ 項目・設問にみられる顕著な傾向・特徴

項目による幸せ感の幅は、「男性」の12.2ポイント（63.6%－51.4%）、「女性」は10.2ポイント（62.7%－52.5%）で、どちらも10ポイント以上の差があるため、男女ともに幸せの感じ方がはっきりしているということが見て取れます。男女間で大きく幸せ感に差がついた項目は「生活基盤が整ったまち」で、項目内全ての設問で「男性」の方が「女性」よりも高くなっています。特に設問「目的地までの移動がしやすいまちだと思う」は12.1ポイントの開きがあり、性別によって幸せの感じ方の違いがはっきり出ています。

項目「安全なまち」の設問「災害、犯罪、事故などが少ない安全なまちだと思う」は、男女ともに1位となっており、ポイントが非常に高く、9割を超える人が「安全なまち」であると感じています。

また、項目「安心できるまち」の設問「地域福祉に関するボランティア活動等に参加してみたいと思う」は、「男性」「女性」とも最下位で、1つ上の順位と10ポイントを超える差が生じています。これは前年度と同じ傾向であり、幸せ感自体も減少していることから、課題があると考えられます。

前回の調査では、問1全体の平均値は、「男性」が62.2%、「女性」が57.7%で、「男性」が4.5ポイント高く、「女性」より幸せを感じている傾向が見て取れましたが、今回の調査では、その差は0.8ポイントと迫っており、性別による幸せの感じ方に差がなくなっていることが見て取れます。中でも、項目「安心できるまち」と項目「心にゆとりを感じるまち」は「女性」の幸せ感が前年度より増加しており、「女性」の生活の中での安心感が高まっているとも言えます。

②問2について

問2の設問では、いずれも「男性」が「女性」を上回っていますが、性別による差は前年度より広がっています。設問「あなたの暮らす地域のことに普段から興味をもっている」は「男性」「女性」とも増加していますが、設問「自分もできれば何か地域の役に立てるようなことをやってみたい」は「男性」「女性」とも大きく減少しており、特に「女性」は3割を切る結果となっていることから、地域における「女性」の役割や、活躍できる場や機会といった面に課題があると考えられます。

設 問	男性 (%)		女性 (%)	
	R 2	R 1	R 2	R 1
あなたの暮らす地域のことに普段から興味をもっている	57.0	52.2	49.7	48.1
自分もできれば何か地域の役に立てるようなことをやってみたい	33.8	42.3	26.7	38.8



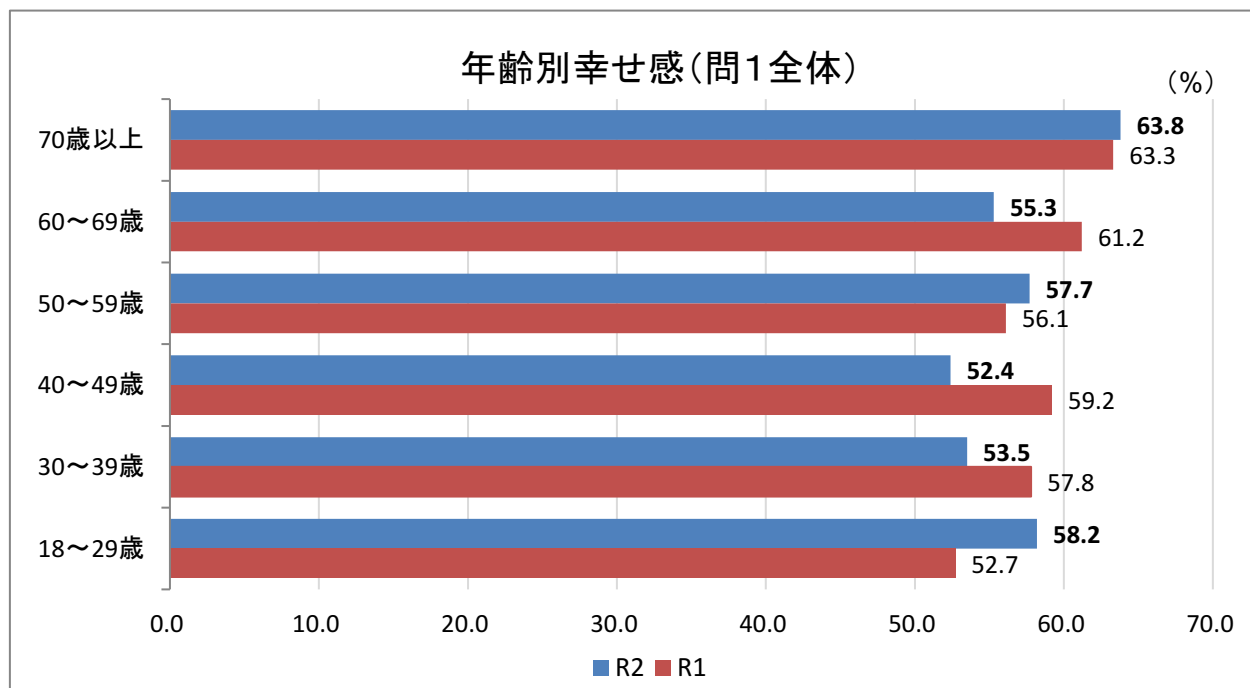
(2) 年齢

①問1について

ア 全体的な傾向

どの年齢層においても半数以上の人が幸せを感じています。

「40～49歳」の年齢層の幸せ感が52.4%で最も低く、次いで「30～39歳」、「60～69歳」の順に低くなっています。



イ 項目・設問に見られる顕著な傾向・特徴

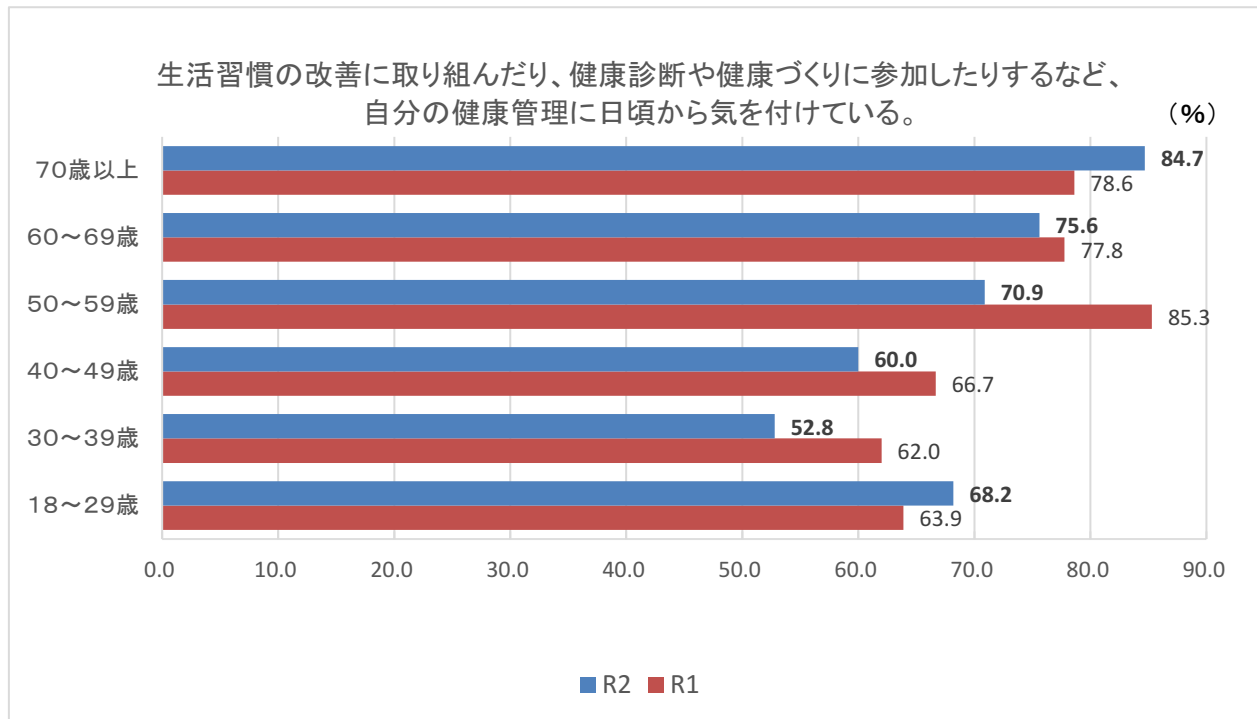
ほとんどの項目で「70歳以上」の幸せ感が最上位となっています。また、「18～29歳」は、前回の調査では4つの項目で最下位でしたが、今回の調査では最下位となった項目は1つもなく、特に「心にゆとりを感じるまち」は65.9%で、全年齢層の中で最上位となっています。

年齢層別で幸せ感に最も差が生じたのは「安心できるまち」で、最上位の「70歳以上」と最下位の「40～49歳」で21.7ポイントの開きがあります。

年 齢	生活基盤が整ったまち		安全なまち		安心できるまち		心にゆとりを感じるまち		大竹を愛する人づくり	
	割合 (%)	順位	割合 (%)	順位	割合 (%)	順位	割合 (%)	順位	割合 (%)	順位
70歳以上	64.7	1	69.0	1	63.5	1	63.1	2	62.9	1
60～69歳	45.5	6	56.1	6	56.1	2	58.5	4	53.5	5
50～59歳	52.7	5	63.6	2	52.7	3	59.4	3	52.1	6
40～49歳	53.3	3	61.2	4	41.8	6	53.3	6	60.0	3
30～39歳	54.7	2	62.3	3	43.4	5	53.5	5	60.2	2
18～29歳	53.0	4	60.6	5	48.5	4	65.9	1	58.4	4

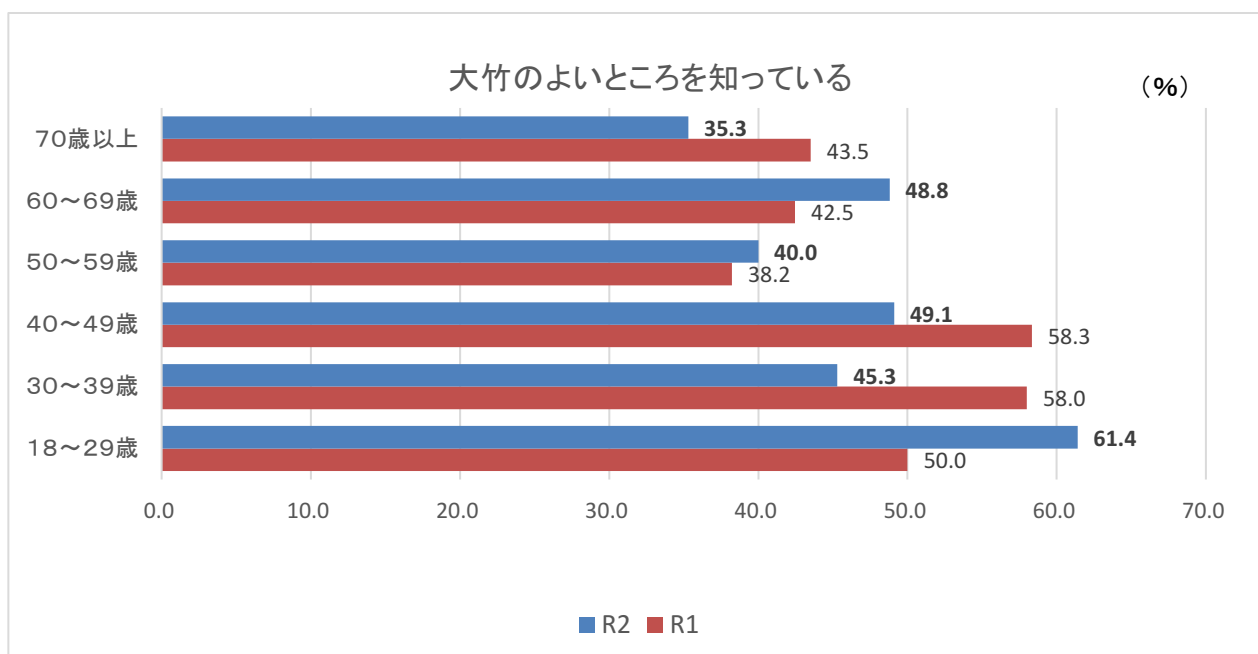
年齢層別で最も幸せ感に差が生じた設問は、「生活習慣の改善に取り組んだり、健康診断や健康づくりに参加したりするなど、自分の健康管理に日頃から気を付けている」です。この設問は、「70歳以上」の84.7%に対し、「30～39歳」は52.8%と、約30ポイントの差が生じています。

この設問は、通常年齢が高くなるにつれて幸せ感も高くなる傾向にありますが、今回の調査では、「18～29歳」が「30～39歳」と「40～49歳」よりも高くなっており、若年層の健康に対する関心の高さが表れています。



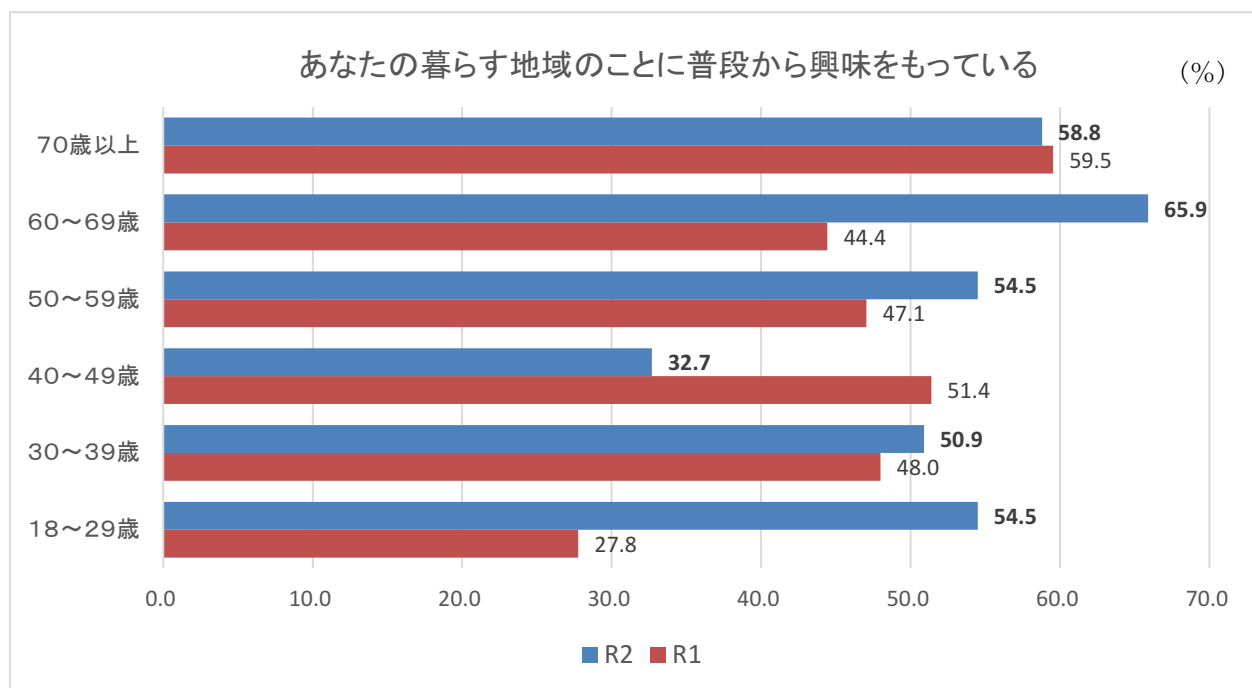
設問「大竹のよいところを知っている」では、全体的な傾向として、「40～49歳」以下の年齢層と比べて、「50～59歳」以上の年齢層の方が「はい」と答えた人の割合が低く、中でも「70歳以上」が最も低いポイントとなっています。

逆に「18～29歳」は前年度より11.4ポイント増加し、全年齢層で最も高いポイントとなっており、若年層が大竹の良さを感じていることが分かります。

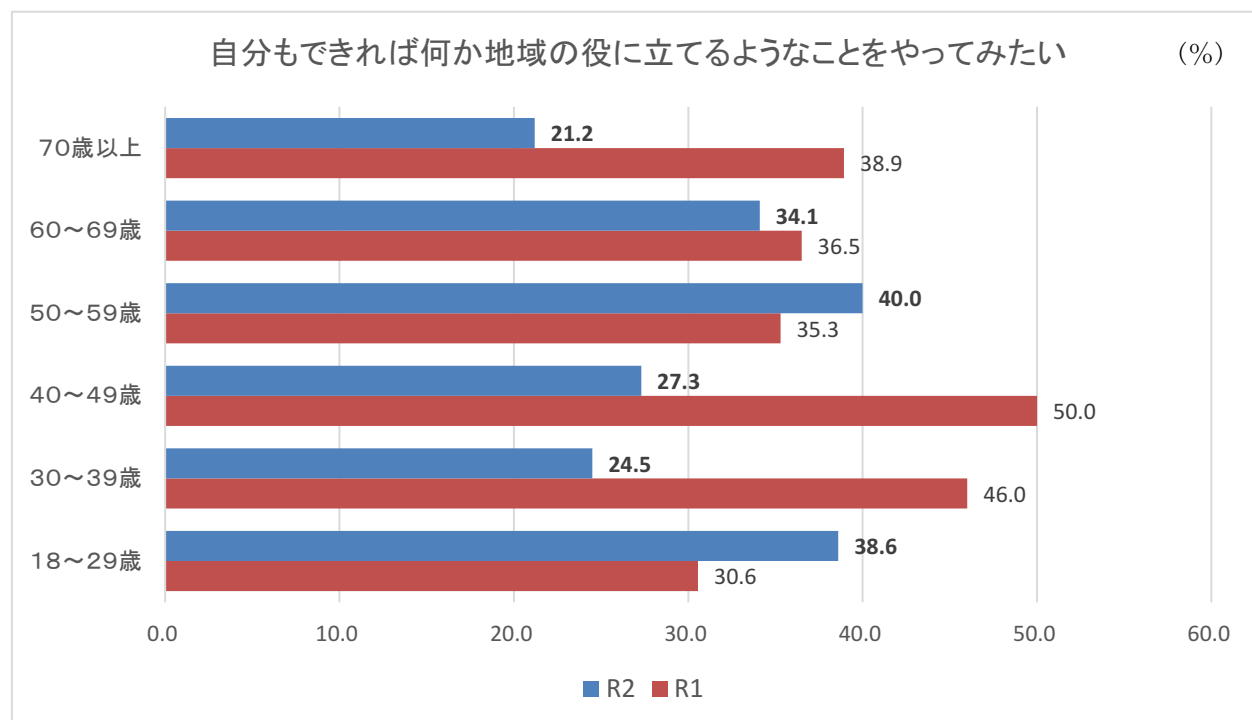


②問2について

設問「あなたの暮らす地域のことに普段から興味をもっている」では、前回の調査で最下位だった「18～29歳」のポイントが大幅に増加し、「50～59歳」と並んで3位となっています。一方で、「40～49歳」は、前年度より18.7ポイント減少し、最下位となっています。



設問「自分もできれば何か地域の役に立てるようなことをやってみたい」では、「70歳以上」「40～59歳」「30～39歳」のポイントが前年度より大幅に減少し、いずれも3割を切っています。一方、「18～29歳」は前年度より増加し、4割に近い人が地域の役に立ちたいと考えていることが見て取れます。

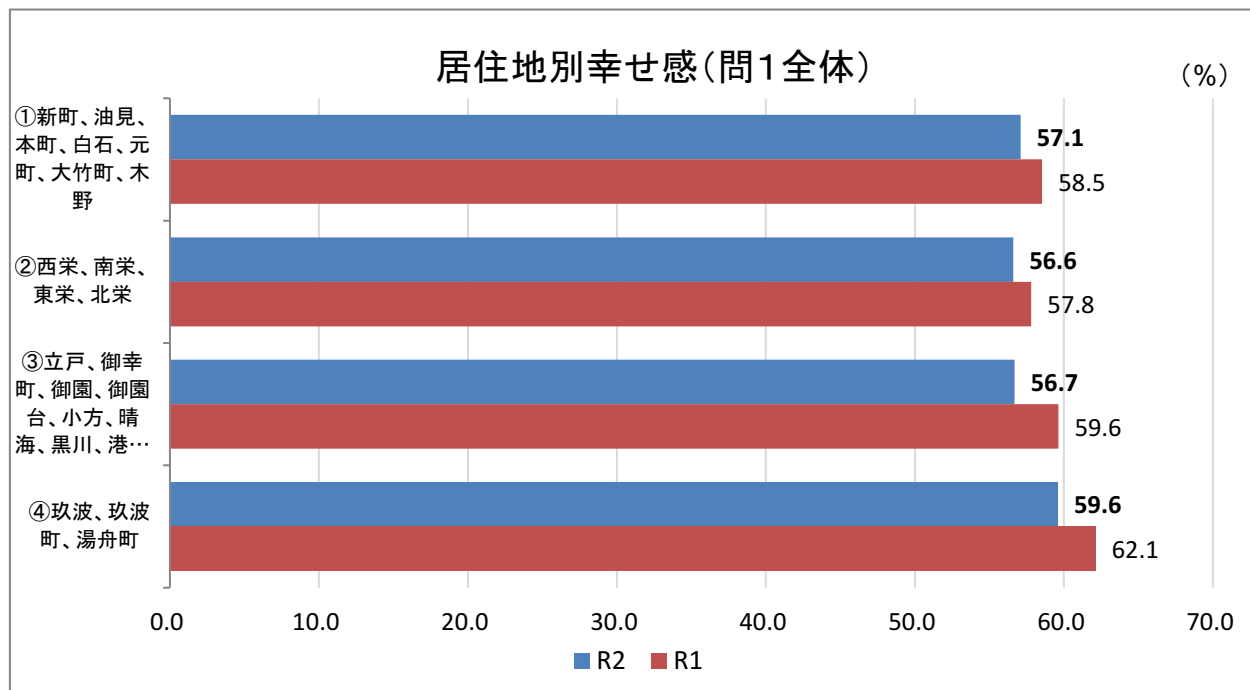


(3) 住所

回答数に大きな差があるため、問1、問2いずれも住所の違いによる特徴を分析できません。
回答数50以上の4つの地域（「①新町、油見、本町、白石、元町、大竹町、木野」・「②西栄、南栄、東栄、北栄」・「③立戸、御幸町、御園、御園台、小方、晴海、黒川、港町、三ツ石町、小方町、小方ヶ丘」・「④玖波、玖波町、湯舟町」）で比較しています。

ア 全体的な傾向

いずれの地区も前年度よりポイントが減少していますが、半数を超える人が幸せを感じており、地区によって明らかな差は生じていません。



イ 項目・設問に見られる顕著な傾向・特徴

地区によって最も差が大きかったのは項目「安心できるまち」で、最も高い「④」と最も低い「②」で11.7ポイントの差が生じています。

一方、「安全なまち」は最も高い「②」と最も低い「①」で3.2ポイントの差であり、いずれの地区も6割を超える人が安全だと感じています。

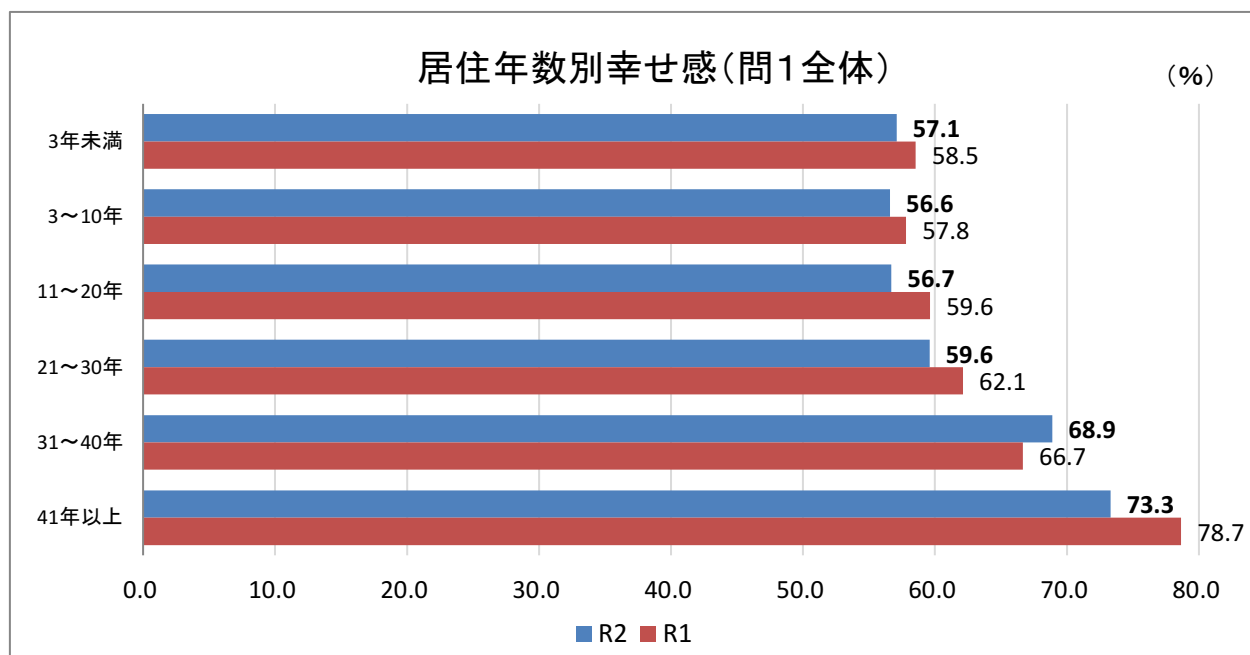
住 所	生活基盤が整ったまち		安全なまち		安心できるまち		心にゆとりを感じるまち		大竹を愛する人づくり	
	割合(％)	順位	割合(％)	順位	割合(％)	順位	割合(％)	順位	割合(％)	順位
①新町、油見、本町、白石、元町、大竹町、木野	53.3	4	62.3	4	52.5	2	60.9	1	56.6	3
②西栄、南栄、東栄、北栄	54.0	3	65.5	1	45.4	4	58.6	2	59.2	2
③立戸、御幸町、御園、御園台、小方、晴海、黒川、港町、三ツ石町、小方町、小方ヶ丘	57.8	1	62.8	3	50.4	3	56.6	4	55.8	4
④玖波、玖波町、湯舟町	57.1	2	63.5	2	57.1	1	58.3	3	62.2	1

(4) 居住年数

①問1について

ア 全体的な傾向

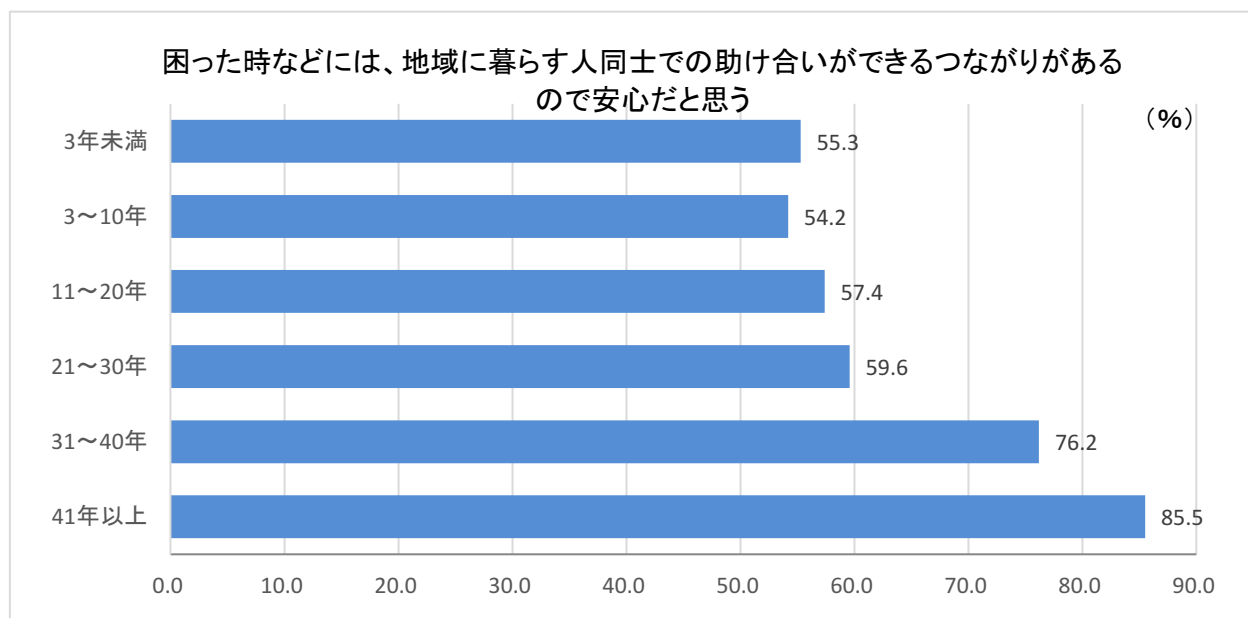
前年度と比べて、居住年数が「31～40年」の層以外の層は、幸せ感が減少しています。若干ばらつきはあるものの、居住年数が長くなるにつれて幸せ感が高くなる傾向にあります。

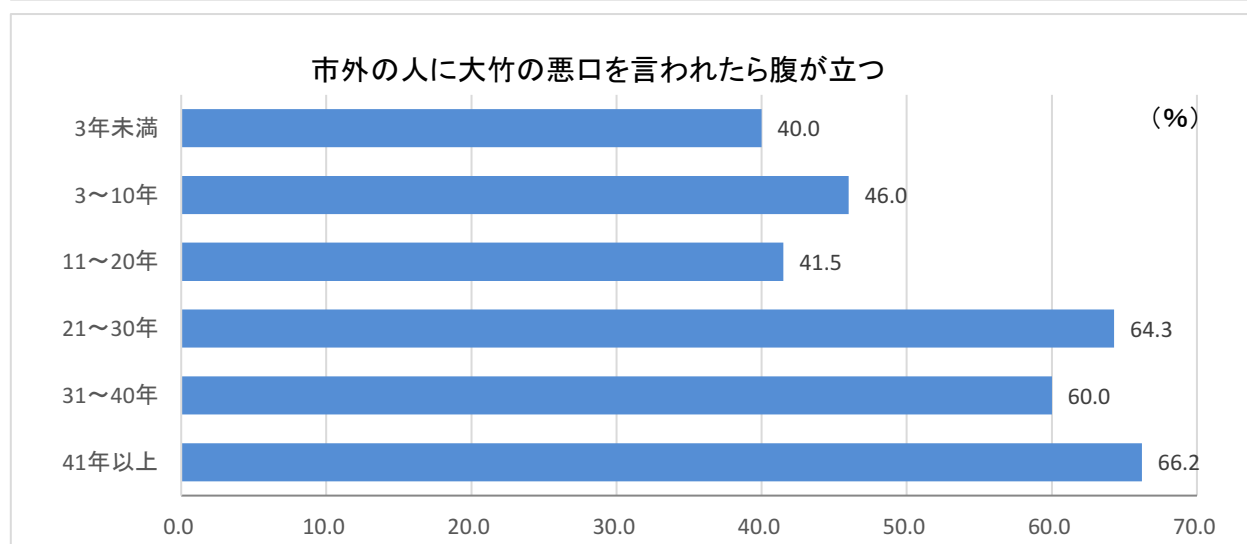
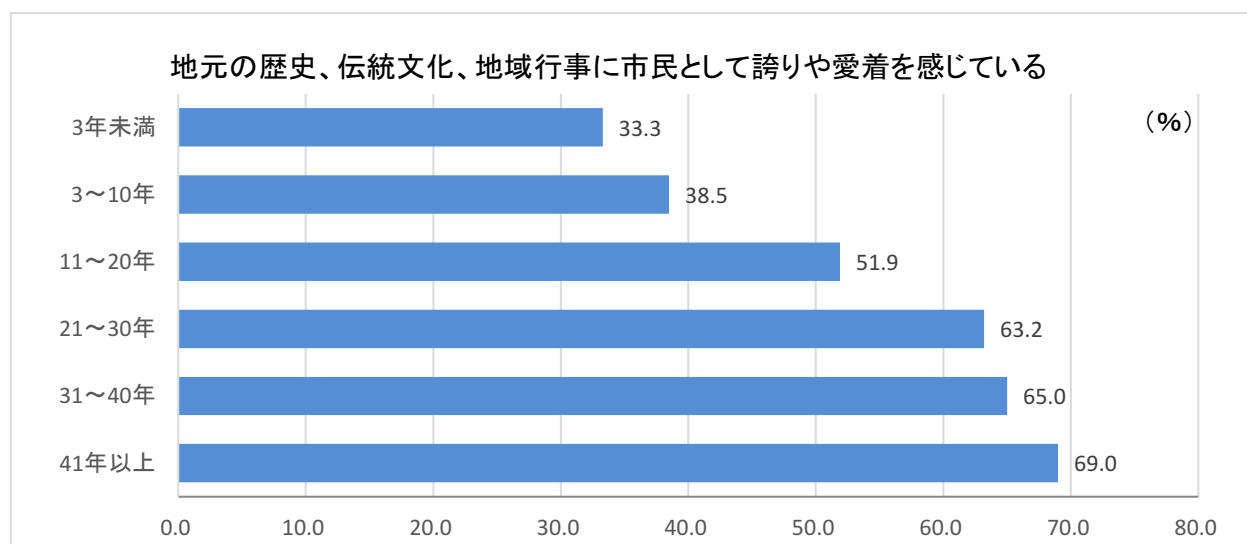


イ 項目・設問に見られる顕著な傾向・特徴

設問「困った時などには、地域に暮らす人同士での助け合いができるつながりがあるので安心だと思う」は、居住年数が増えていくにつれて、「はい」と回答している人が多くなる傾向が見られます。長く住むほどに地域の人とのつながりが深まっていくことが、安心できる暮らしにつながっているものと思われます。

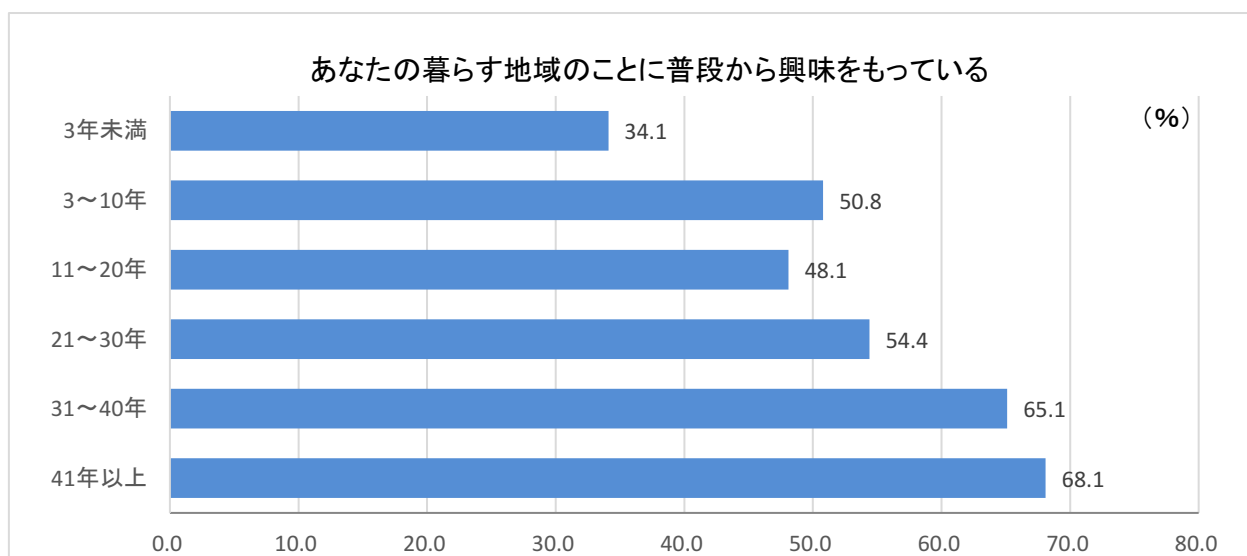
また、設問「地元の歴史、伝統文化、地域行事に市民として誇りや愛着を感じている」と「市外の人に太竹の悪口を言われたら腹が立つ」も同様に、居住年数が増えていくにつれて、「はい」と回答している人が多くなる傾向が見られ、長く住むことでまちへの愛着が高まっているものと思われます。





②問2について

設問「あなたの暮らす地域のことに普段から興味をもっている」は、問1の傾向と同じく、居住年数が増えるほど「はい」と回答をしている人が多くなる傾向が見られ、自分が住む地域への関心が高まっていると考えられます。



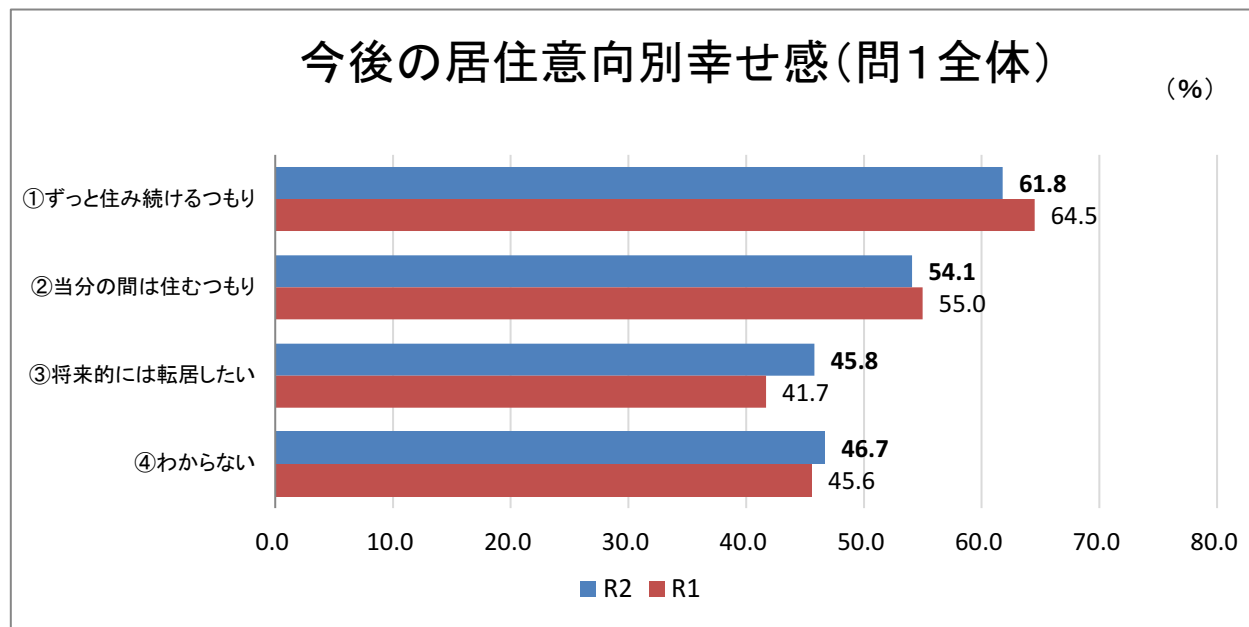
(5) 今後の居留意向

選択肢のうち、「近いうちに転居するつもり」と回答した人は、1人と人数が少なく、傾向として判断できないため掲載していません。

①問1について

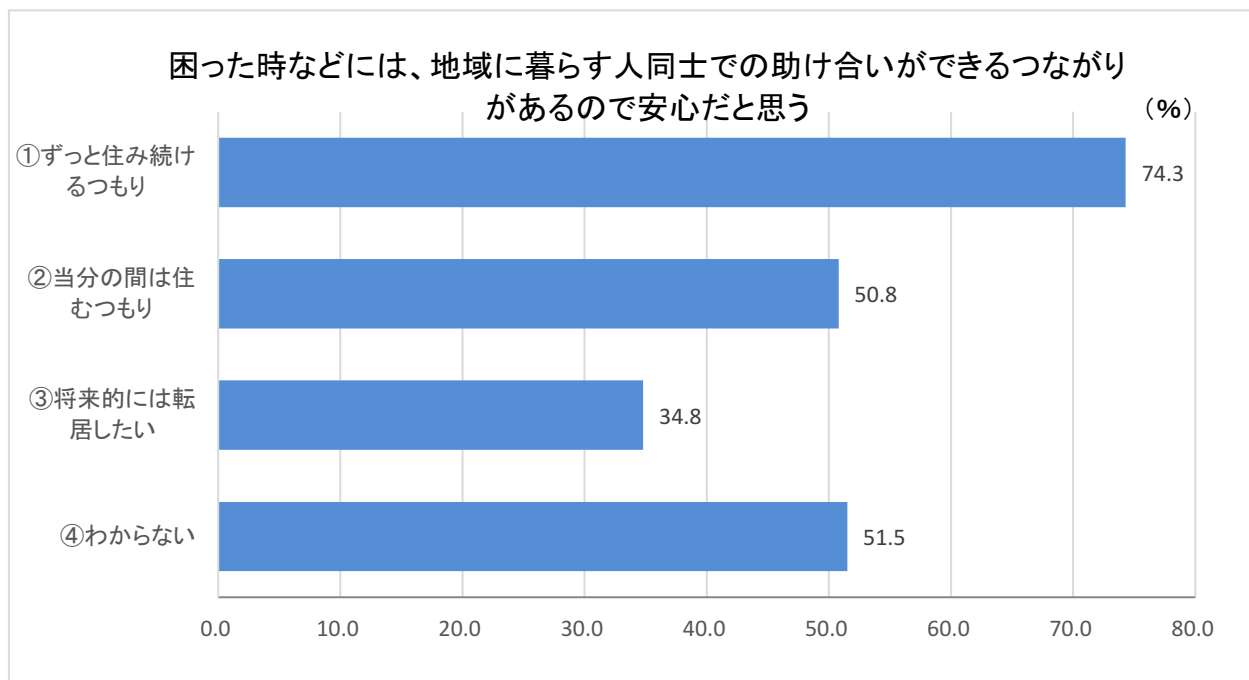
ア 全体的な傾向

「わからない」を除くと、昨年度と同様「将来的には転居したい」＜「当分の間は住むつもり」＜「住み続けるつもり」の順で幸せ感が高くなっており、長く住み続ける意向を持つ人ほど、幸せを感じているようです。また、「わからない」の人も、半数近くが幸せを感じています。

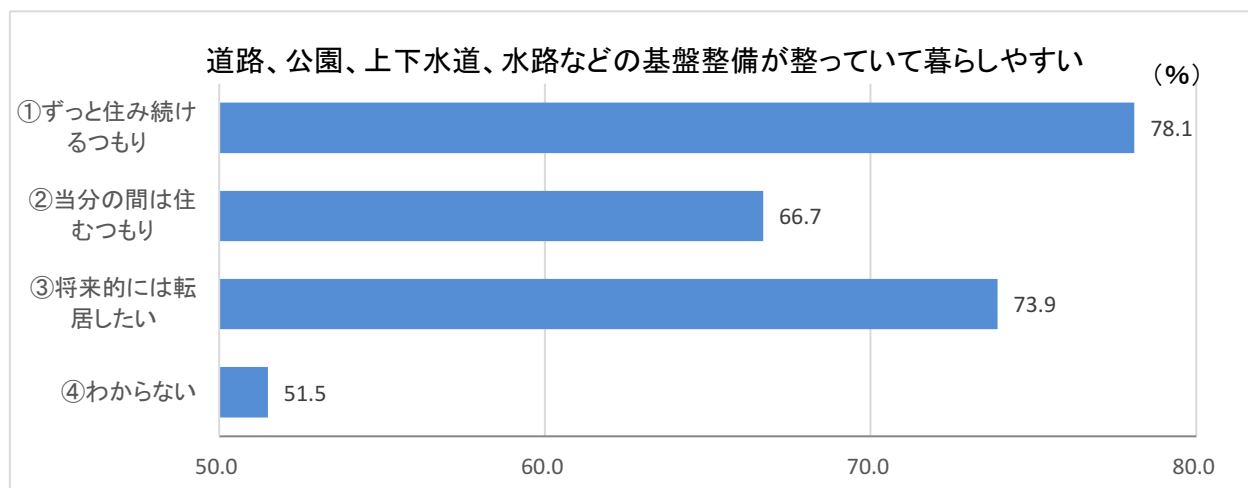
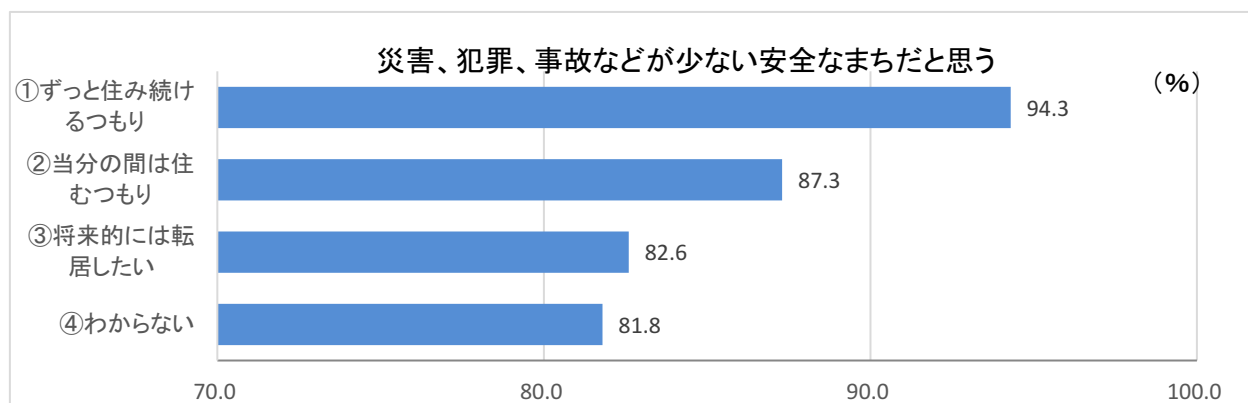


イ 項目・設問に見られる顕著な傾向・特徴

多くの項目において全体的な傾向と類似しています。特に設問「困った時などには、地域に暮らす人同士での助け合いができるつながりがあるので安心だと思う」では、「住み続けるつもり」の人の幸せ感は、「将来的には転居したい」と考えている人より40ポイント近く高くなっています。長く住む意思がある人は、地域でのつながりをつくる傾向にあります。

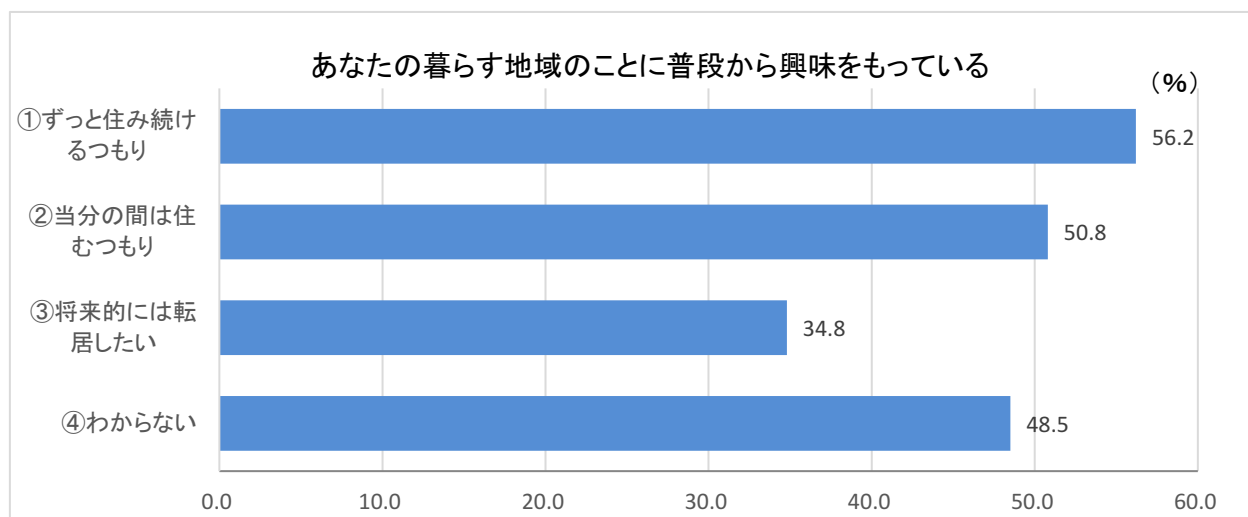


設問「災害、犯罪、事故などが少ない安全なまちだと思う」は、8割を超える人が「はい」と回答しています。また、設問「道路、公園、上下水道、水路などの基盤整備が整っていて暮らしやすい」は、「わからない」と回答した人を除くと、「将来的には転居したい」と答えた人でも7割近い人が「はい」と回答しており、安全で暮らしやすいまちであると感じていることが分かります。



②問2について

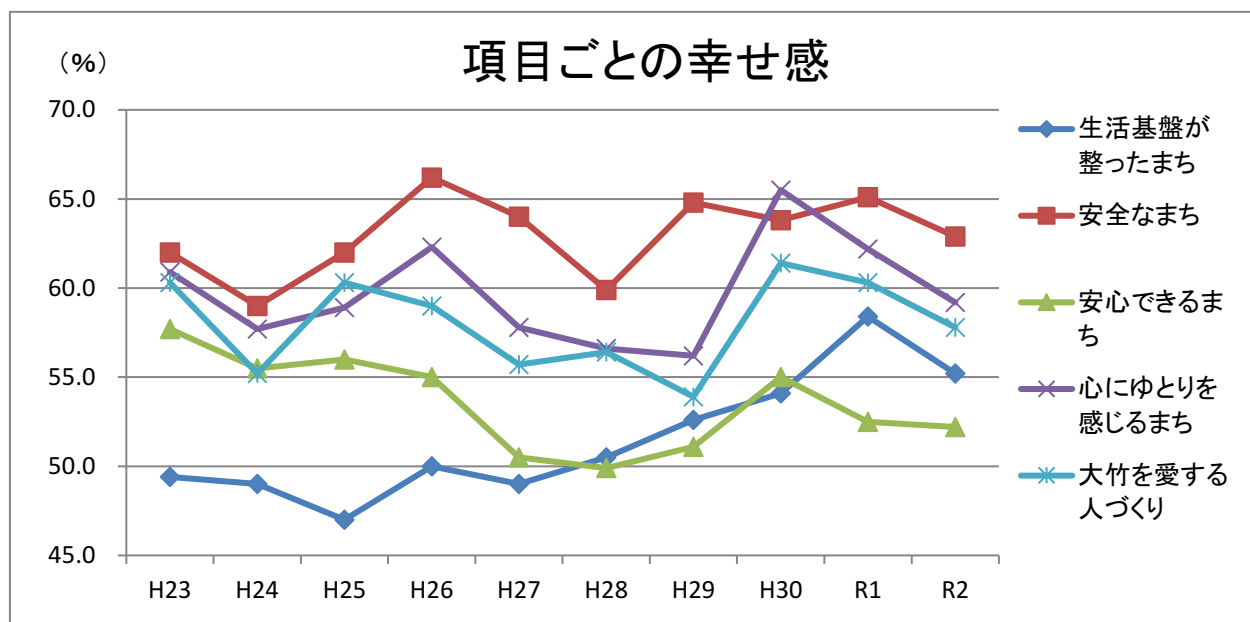
設問「あなたの暮らす地域のことに普段から興味をもっている」の割合は、全体的な傾向と同様に、今後も住み続ける意向が強いほど高くなっており、長く住むほど地域への関心が高まる傾向にあることが分かります。



3 「わがまちプラン」中の数値の動き（過去10年間）（H23-R2）

（1）項目ごとの推移

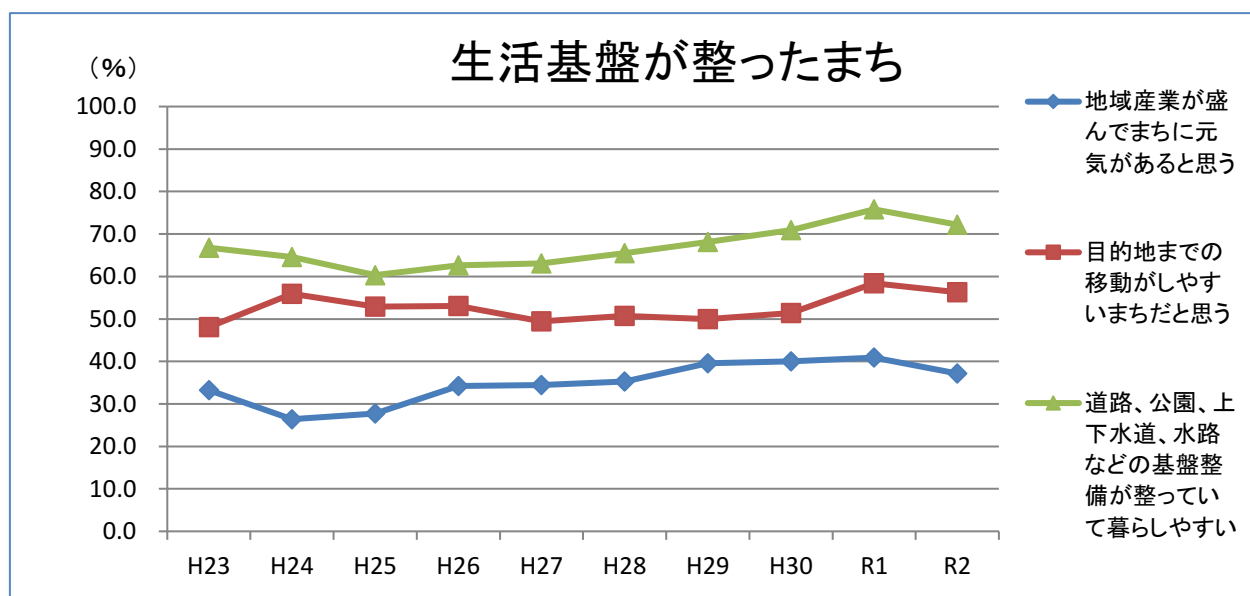
わがまちプラン後期基本計画の初年度であるH28と比較すると、全ての項目で幸せ感が高まっていますが、前年度との比較では、全ての項目で減少しています。



（2）設問ごとの推移

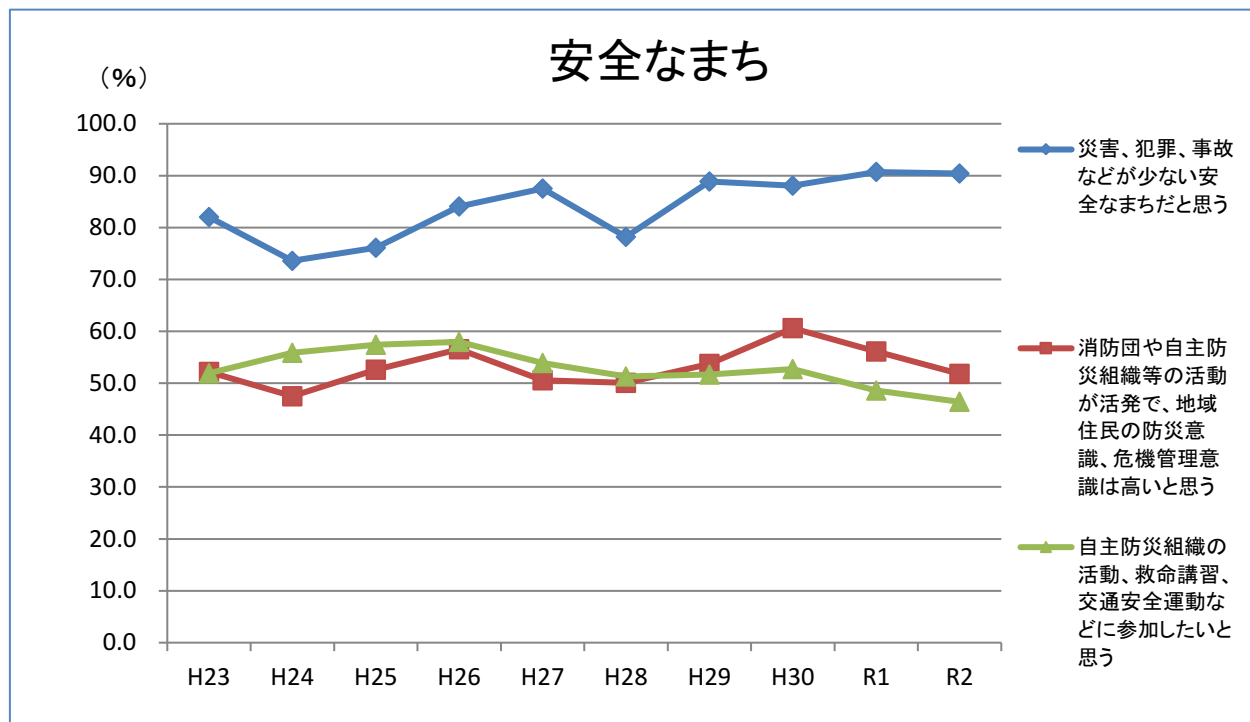
①生活基盤が整ったまち

「道路、公園、上下水道、水路などの基盤整備が整っていて暮らしやすい」は常に上位にあり、ここ数年は7割以上の人が幸せ感を感じていることが分かります。



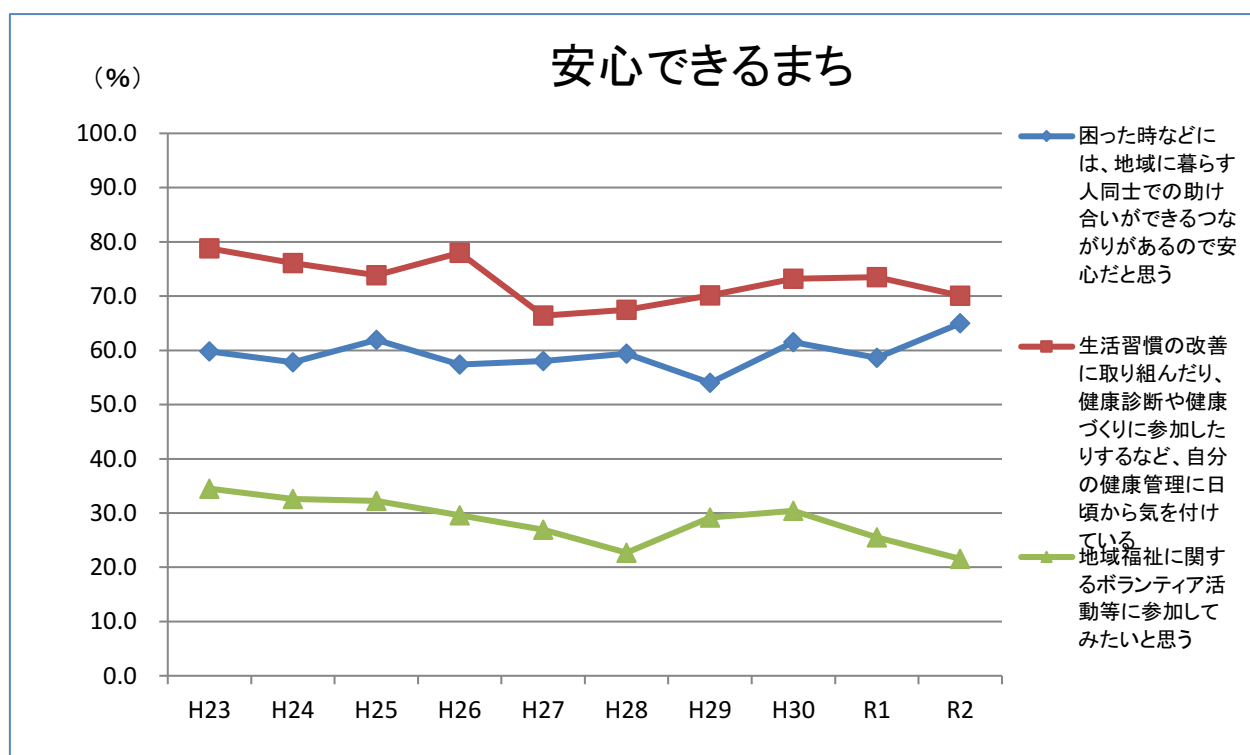
②安全なまち

「災害、犯罪、事故などが少ない安全なまちだと思う」は、その年に起きた事故や事件に左右されることもありますが、安定して高位をキープしています。



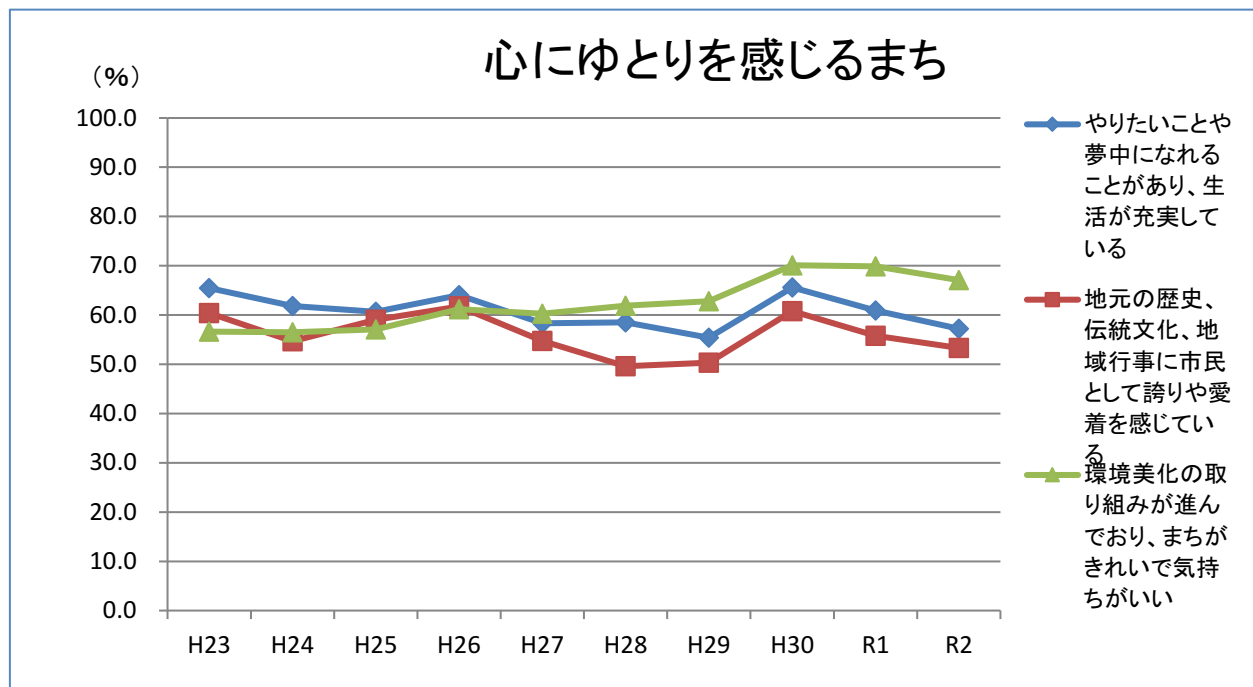
③安心できるまち

「困った時などには、地域に暮らす人同士での助け合いができるつながりがあるので安心だと思う」と「地域福祉に関するボランティア活動等に参加してみたいと思う」は、相関関係にありそうな設問ですが、4割以上の開きがあります。いざという時に備え、平時からのつながりをボランティア活動など、より実効性の高い取組につなげていくことが重要と考えます。



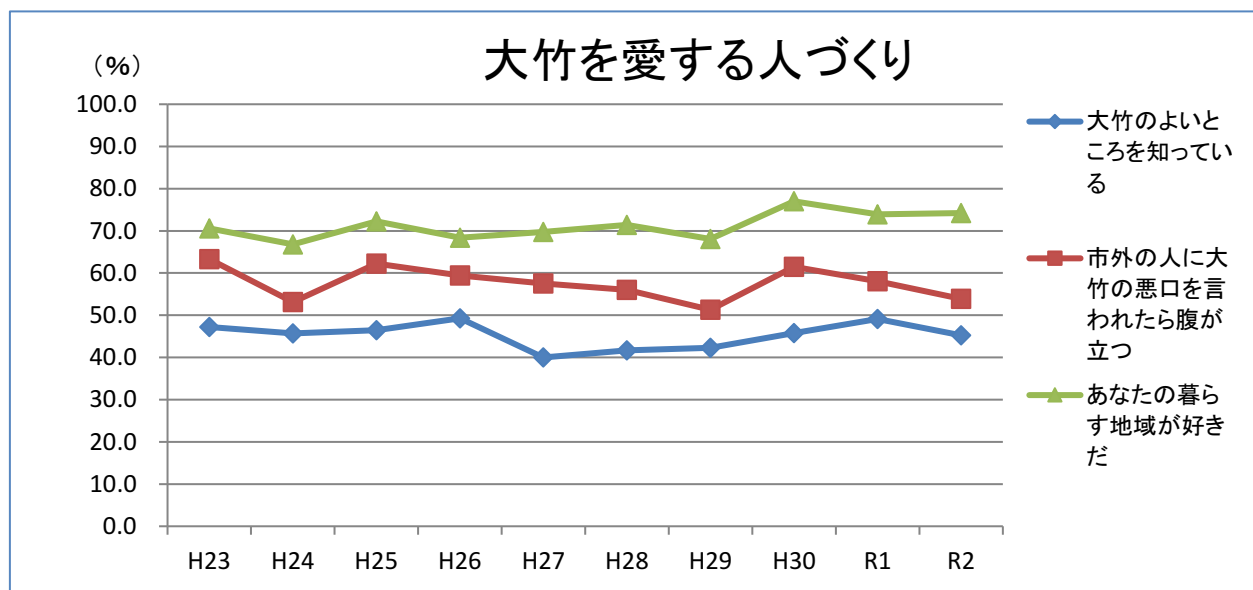
④心にゆとりを感じるまち

「環境美化の取り組みが進んでおり、まちがきれいで気持ちがいい」は、微減傾向にありますが、依然として7割近い人が幸せ感を感じています。



⑤大竹を愛する人づくり

「あなたの暮らす地域が好きだ」が高位をキープしており、市が行う施策において、協力が得やすい状況といえます。一方、「市外の人到大竹の悪口を言われたら腹が立つ」が減少傾向にあり、「大竹のよいところを知っている」も前年度より減少しています。大竹に誇りを持ち、市外の人にも自慢できるような「大竹の良さ」を高めていくことが重要と考えます。



⑥市民自治

「あなたの暮らす地域のことに普段から興味をもっている」と「自分もできれば何か地域の役に立てるようなことをやってみたい」の間には、2割以上の開きがあります。地域への関心の高まりを、地域づくりに結びつけるような取組が求められます。

